

## 事例5

## 子どもからはじまる保育



学校法人柿沼学園認定こども園こどもむら栗橋さくら幼稚園園長●塚越優子

## 1 秘密基地

発表会の劇では大道具係・小道具係・台本係に分かれて子どもたち主体で作りに上げていきます。

大道具係は大きな段ボールに絵を描き、段ボールカッターで切っていきます。木でテーブルを作るときは金づちとくぎを使い、「ここをおさえて」「曲がってないか見て」などと協力して行っています。

小道具係は木の枝、木の実、染めた布、紙粘土など、いろいろな素材を使って料理や帽子などを作っていきます。「ボンドでつかないね」「ホチキスがいいかな」「グルーガンを使おうよ」と今までの経験の中から一番よい道具は何なのかを考えて作ります。

台本係は絵本を読みながら、「こんな言い方はどう?」「それいいね」などと相談しながら紙に台詞を書いています。劇中の効果音も以前使った楽器の音色を思い出しながら探していきます。

子どもたちだけで話し合う機会が増え、最初は自分の意見を押しとおしたり、話し合い中に声が大きくなったりという場面もありましたが、徐々に折り合いのつけ方や交渉力を学ぶようになっていきます。

ある日、ロフトで遊んでいた男の子たち。「ロフトに秘密基地をつくろうよ」と話し始めます。発表会の劇で大道具を作った経験から、早速、段ボールカッターを使いドアを作り始めました。すると、その姿を見ていたまわりのお友だちも「わたしもつくりたい!」「秘密基地って楽しそう」と仲間が増えていきます。

「秘密基地って何があるの?」「絵で描いてみようよ」と絵を描き始

める子どもたち。「ごはんを作るところと食べる場所、寝るところもあるよね」と意見が出ます。発表会の劇のときの役割を生かし、大道具係だった子が壁や棚を作り、小道具係だった子がテレビやキッチンの小物を作り出しました。徐々に秘密基地が出来上がってくると、「秘密基地なんだから外から見えない方がいいよ」「じゃあカーテン作ろう」という意見が出ます。「どんなカーテンがいいかな」「運動会するとき作ったポンポンをたくさん飾るのはどう?」と3歳児のときを思い出した女の子。そして、たくさんポンポンを作り、窓に飾りました。

秘密基地作りは劇あそびの経験から、**考えや思いを言葉で伝え合い、ひとつのものを作り上げていくなかでみんなの思いもひとつになったのだ**と思います。



## 2 みんなで食べたいね

秋には自分たちで育てたお米が取れ、子どもたちの提案で収穫祭におにぎりを食べようということになりました。「どんなおにぎりにしようか」と子どもたちが話し合いを始めます。「焼きおにぎり」「しゃけおにぎり」「肉巻きおにぎり」など各クラスはそれぞれ違う面白いおにぎりを作ることになりました。

そんな中、宗教上の理由などで作ったものが食べられない〇〇くんがいました。保育者が何も言わなくても子どもたちがその子に気づき、「〇〇くんも食べられるものをつくりたい」と提案してきたのです。「ど



ういうものなら食べられるのか」話し合いを始めます。わからないところは栄養士さんに相談しながら、自分たちで考えていきました。



話し合いの結果、決まったのはおにぎり「餃子」。〇〇くんだけでなく、食物アレルギーのある子も食べられる「みんなが食べられる餃子」というテーマもでき、栄養士さんのサポートを得て、4種類の餃子を考案。参観日に親子で作って食べることにしました。例年、参観日には保育理解と子どもたちの成長を感じてもらう機会として子どもたちがカレーを保護者に振る舞っていたため、保護者の方から「なんで餃子なの？」という問いに子どもたちは「みんなで同じものが食べられるでしょ」「今日は〇〇くんもみんなと食べられるね」と自然に答えられる子どもたち。異文化への尊重が自然にでき、友だちの個性を認めることができているなど感じました。



### 3 パンがない！——トラブルをのりこえる子どもたち

園では自分の役割をもち責任をもって行動するために当番活動を行っています。決まったことを間違いなく行動することも大事ですが、自発的に考え行動することを目的としています。失敗したときほど、問題解決のための話し合いや意見の伝え合いなどを行い大きな学びとなると考えています。

5歳児のお食事当番は毎朝、その日食べる分のお米を研ぎます。お茶碗で食べるときは8合、どんぶりのときは10合、お休みのおともだちが多いときは7合などと考え、表を作りました。子どもたちは毎朝、メニュー表を見て、炊くお米の量が書いてある表を確認し、「1合～2合～……」と軽量カップを使って数えながら米びつから計量

カップを使って量ります。時には大量のお米をこぼしたり、水の量を間違えたり、失敗の繰り返しですが、今ではみんなが大好きのカレーの日にはちょっと多めに炊いた方がよいと判断もできるようになりました。



ある日、パン屋さんのミスでパンが届かないというトラブルが起きました。メニューはパンだったのでキッチンでは炊飯していません。すると、「いつもみたいにぼくたちがごはんを炊いておにぎりにすればいいんじゃない」「スーパーにパン売ってるから、買いに行けばいいよ」と2つの提案が。そこでおにぎりチームとパンチームにわかれて話し合いを続けることにしました。

「おにぎりチーム」は3歳児、4歳児はどのくらい食べるのか、おにぎりの大きさはどのくらいがいいか食べやすいのかななどを各クラスに聞きに行き、表にまとめます。「10合を4クラスで炊けば間に合うかな」と考え、炊飯を始めます。「ラップが必要だね」「塩はキッチンにあるかな？」などと話し合いは進み、準備万端でごはんが炊けるのを待ち構えます。「熱い熱い！」「どうやれば三角になるの？」と大変でしたが、大小さまざまな塩おむすびができました。

「パンチーム」はメニューを確認し、「食パンを買えばいいんだね」「何枚買えばいいの？」と調べ始めます。スーパーに行くと、「パンの場所わかるよ」「何枚切りを買えばいいの」と張り切ってかごいっぱいに入れます。園に戻ると、各クラスの必要枚数に分け、「パンのお届けです！」と各クラスに配ることができました。

子どもたちの活躍により、おにぎりとおパンでいつもより特別なランチを食べることができました。

